
MAKING THE IMAGE INTELLIGENT



事業計画及び成長可能性に関する事項

株式会社デジタルメディアプロフェッショナル

2024年6月25日

本資料に記載された意見や予測などは資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。様々な要因の変化により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

- 会社概要
- ビジネスモデルと競争優位性
 - ビジネスモデル・収益サイクル
 - 競争優位性
 - 収益構造
- 市場動向
- 成長戦略・事業戦略
- リスク情報
- 本資料の取り扱いについて
- 補足資料





会社概要



創業以来、世界有数のGPU IPベンダーとして実績を誇るファブレス半導体ベンダーです。近年は世界をリードする「AI Computing Company」となるべく、アルゴリズム・ソフトウェアからハードウェア、エッジからクラウドに亘るEnd to EndのAIサービスの提供により、お客様や社会の課題解決に貢献しています。

会社名	株式会社デジタルメディアプロフェッショナル (DMP)
事業内容	GPU及びAIに関わる、IPライセンス、SoC/モジュール開発&販売、及び受託開発サービス
設立	2002年7月
所在地	東京都中野区
代表者	代表取締役会長兼社長CEO 山本 達夫
資本金	1,838百万円
連結従業員数	65名 (2024年6月1日現在)
特許数	35件
連結子会社	Digital Media Professionals Vietnam Company Limited

年月	沿革
2002年7月	設立
2005年7月	ULTRAY® ビジュアルプロセッサを発表
2007年4月	PICA®グラフィックスIPコアが「第9回 LSI IPデザインアワード」企業部門「IP優秀賞」を受賞
2009年4月	SMAPH®-FベクターグラフィックスIPコアを発表
2009年11月	SMAPH®-S 3DグラフィックスIPコアを発表
2011年6月	東京証券取引所マザーズ市場へ上場
2014年5月	株式会社UKCホールディングス(現株式会社レスターホールディングス)と業務資本提携
2016年8月	新3DグラフィックスIPコア「M3000」シリーズを発表
2016年11月	Deep Learningを用いた画像認識エンジン「ZIA™」を発表
2018年3月	次世代グラフィックスプロセッサ「RS1」を量産・出荷開始
2019年5月	ヤマハ発動機株式会社と業務資本提携
2019年5月	ISO9001:2015認証(審査機関インターテック・サーティフィケーション株式会社)取得
2020年4月	「Digital Media Professionals Vietnam Company Limited」を設立
2021年4月	Cambrian Inc.と資本業務提携
2022年4月	東京証券取引所グロース市場へ移行
2023年11月	Cambrian Inc.に追加出資

事業内容／取り組み分野と売上高・構成比（2024年3月期）

● 事業

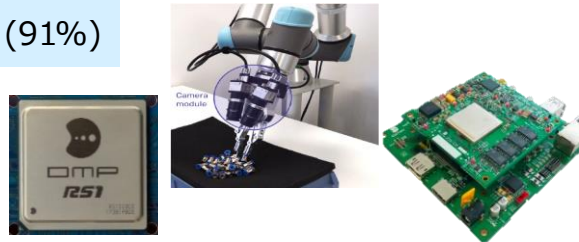
IPコアライセンス事業 170百万円 (6%)

- ・AI/GPU IPコアライセンス
- ・AIソフトウェアライセンス
- ・AI/GPU IPメンテナンス・サポート



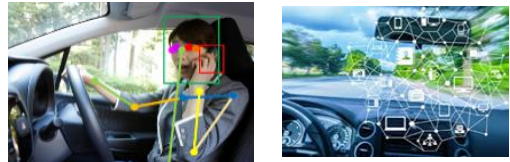
製品事業 2,758百万円 (91%)

- ・アミューズメント市場向け画像処理半導体
- ・協働ロボット向けビジョンシステム
- ・AI FPGAモジュール/カメラモジュール



プロフェッショナルサービス事業 87百万円 (3%)

- ・AIアルゴリズム、コンピュータビジョンソフトウェア受託開発
- ・FPGA/ボード受託開発
- ・安全運転支援システム、ロボティクスに係る顧客製品・サービス開発サポート



● 分野

セーフティ分野 71百万円 (2%)

- ・ドライブレコーダー等を活用した先進運転支援システム、ドライバーモニタリングシステム向けAIライセンス、製品、プロフェッショナルサービスの提供



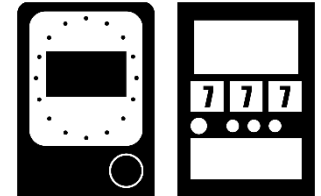
ロボティクス分野 168百万円 (6%)

- ・ロボティクス製品（自律走行ロボット、協働ロボット）向けAIライセンス、製品、プロフェッショナルサービスの提供



アミューズメント分野 2,642百万円 (88%)

- ・アミューズメント市場（遊技機）向け製品、サポートの提供



その他分野 134百万円 (4%)

- ・デジタル機器等向けIPコアライセンス（初期ライセンス、ランニングロイヤリティ）提供
- ・GPU IPメンテナンス・サポート

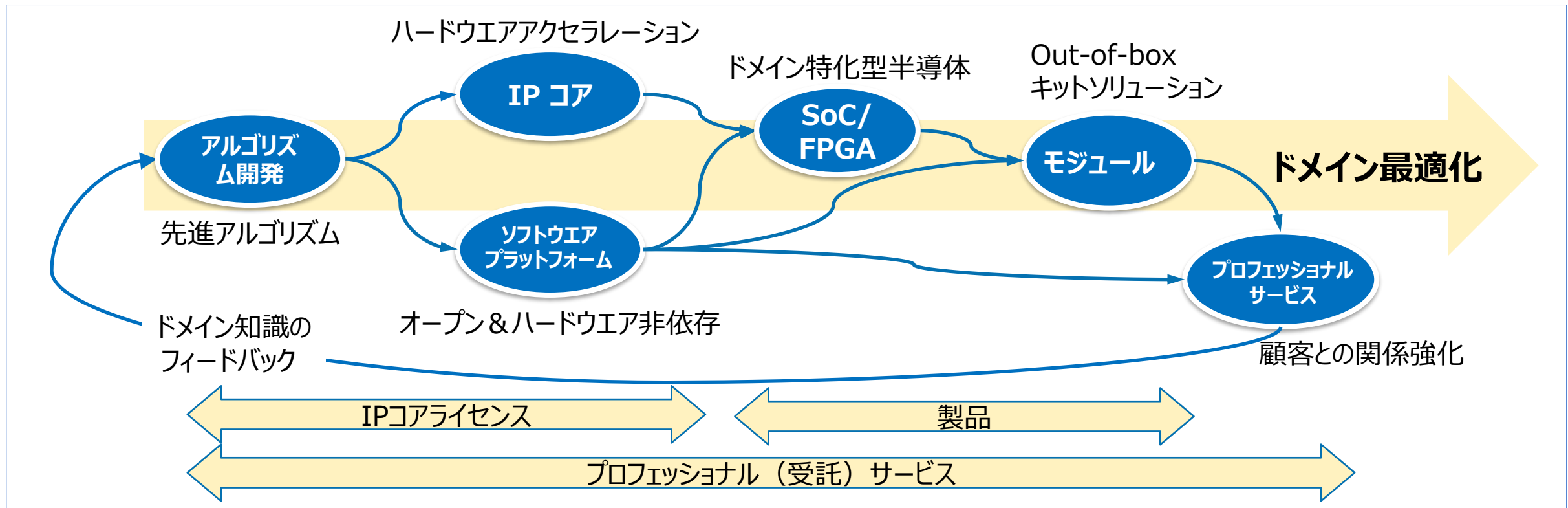




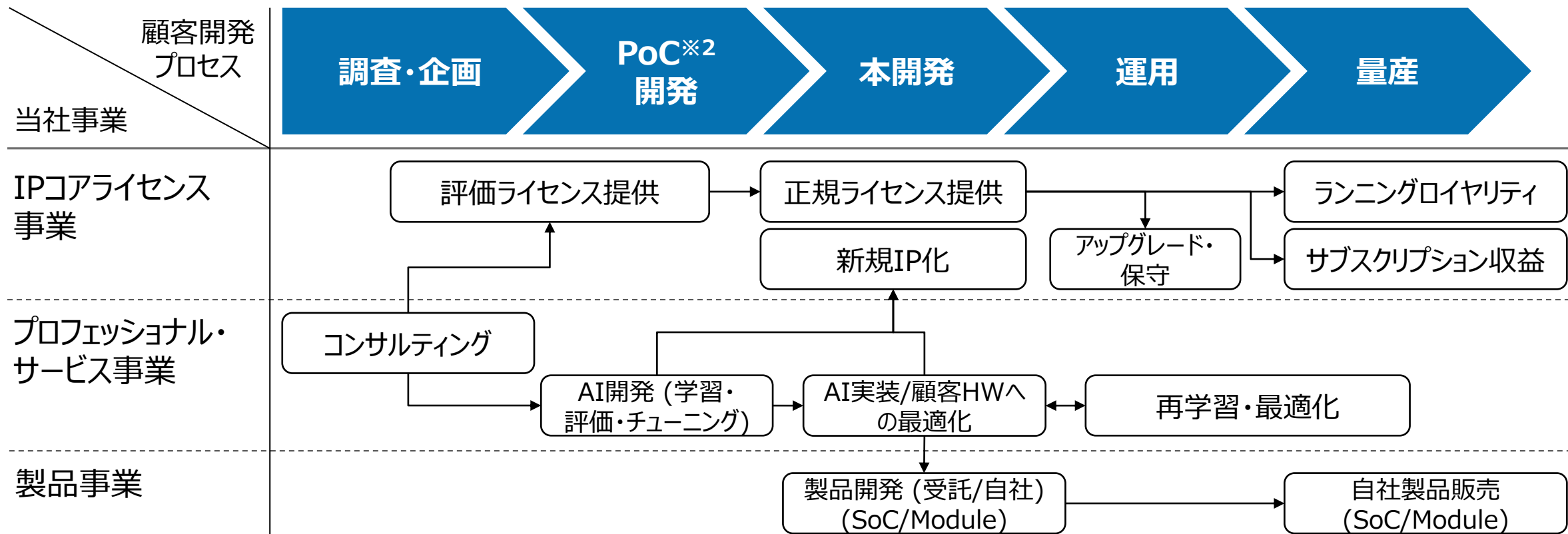
ビジネスモデルと競争優位性



- アルゴリズム、ソフトウェア、ハードウェアを統合的に開発（ドメイン最適化）
- ライセンス、製品、プロフェッショナルサービスによる柔軟な価値の提供、収益化モデル
- 収益性の高い「IPコアライセンス」、スケール追求型の「プロフェッショナルサービス」、「製品事業」のバランスのとれた収益構造を構築



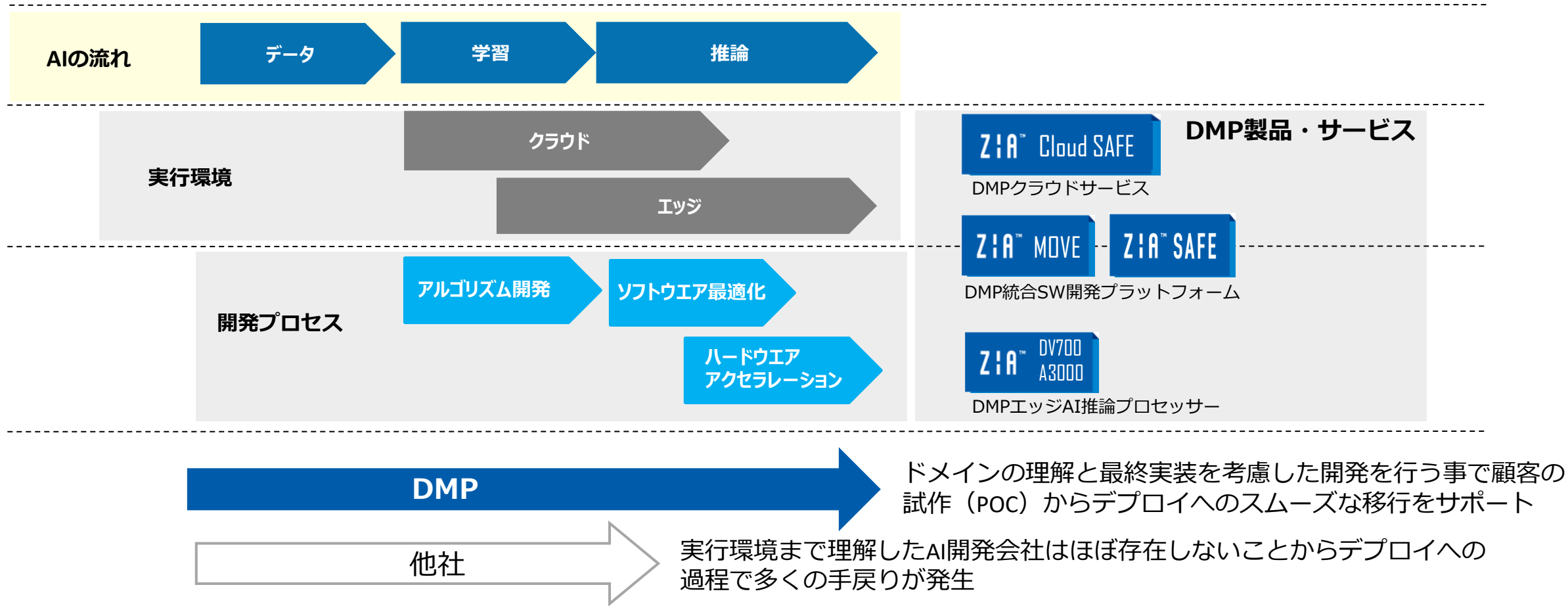
- 顧客製品の開発ライフサイクル全体（企画～量産）に亘る、付加価値提供、LTV※1最大化
- 顧客プロジェクトで培ったテクノロジー・ノウハウに基づく標準製品・サービスの開発・提供により、顧客開発に柔軟、迅速に対応するとともに、利益率の向上を図る



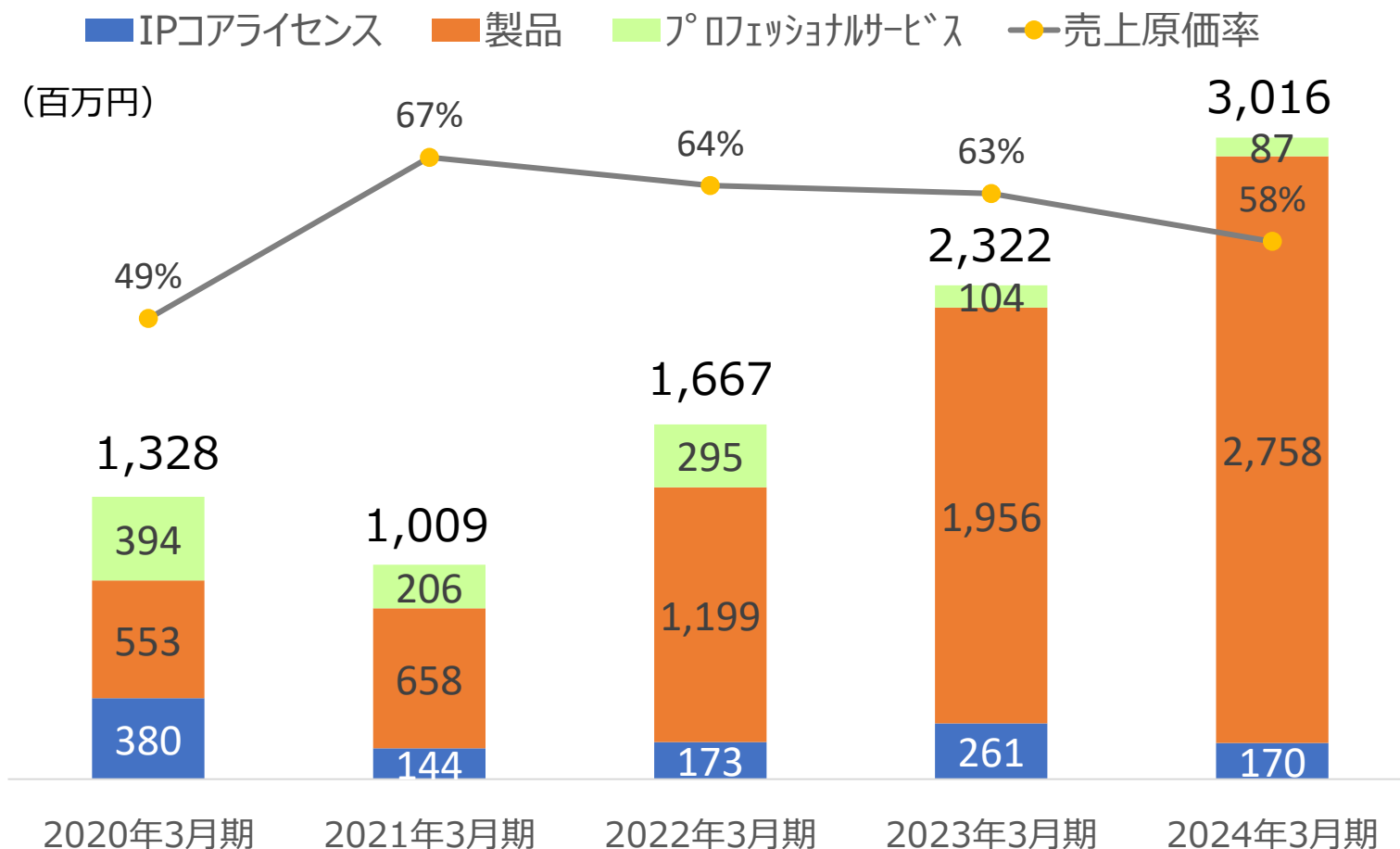
※1 LTV : Lifetime Valueの略。顧客との取引開始から終了までに得られる利益のこと (顧客生涯価値)

※2 PoC : Proof of Conceptの略。新しい概念や理論、原理を本格的に導入する前に行う実現可能性に関する検証・試行のこと

DMPはAI処理をハードウェアを含めてドメインに最適化することが可能

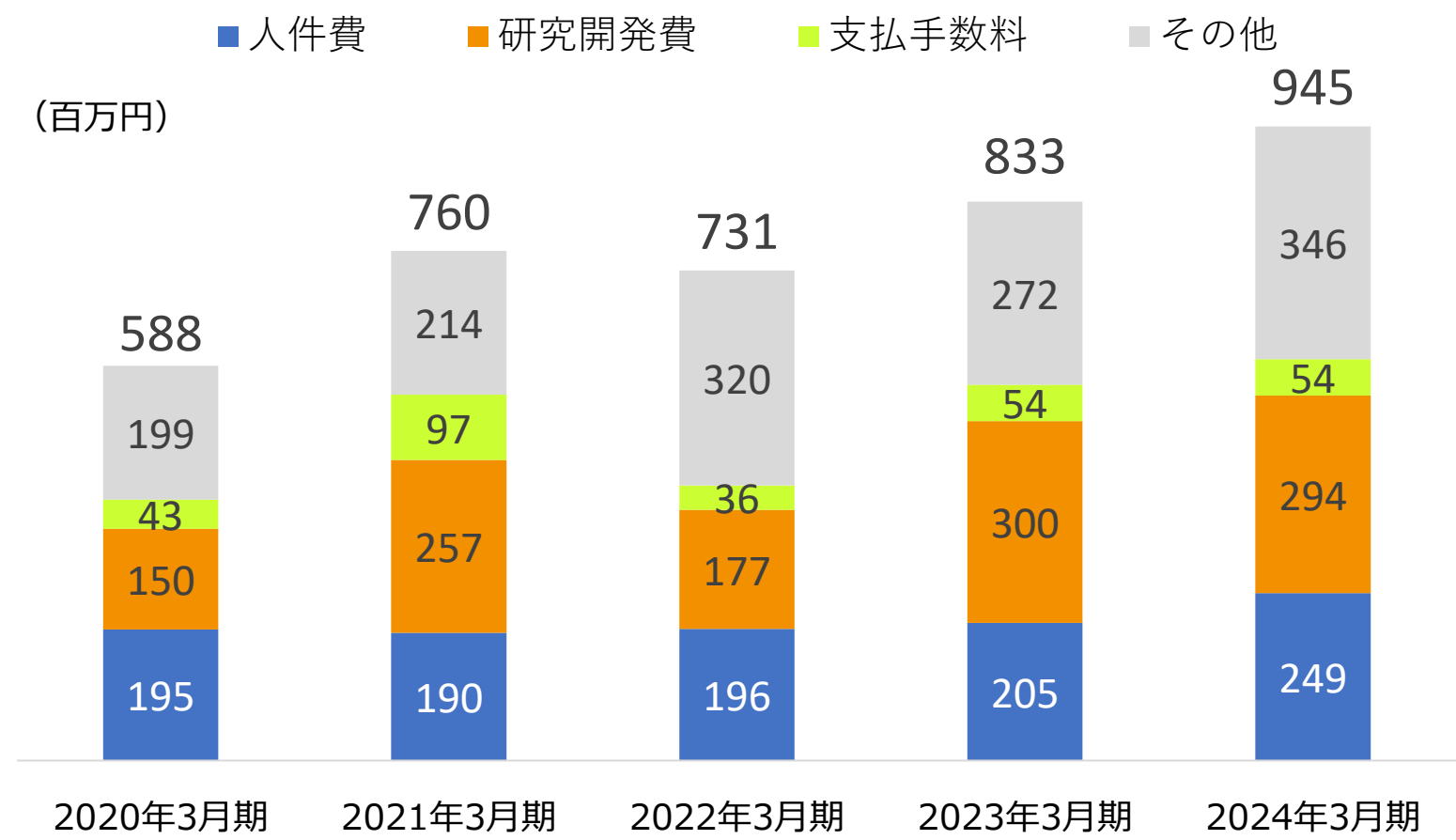


- 売上原価率は、IPコアライセンス売上高(比率)の増加に伴い下降傾向
- 2024年3月期は製品事業の原価低減により、全体の原価率も低下



注) 2020年3月期は非連結、2021年3月期以降は連結

- SGA（販売費及び一般管理費）は人件費や研究開発費が中心
- 研究開発費は、中期的な成長に向けたテクノロジー、ソリューション開発に関わるもの



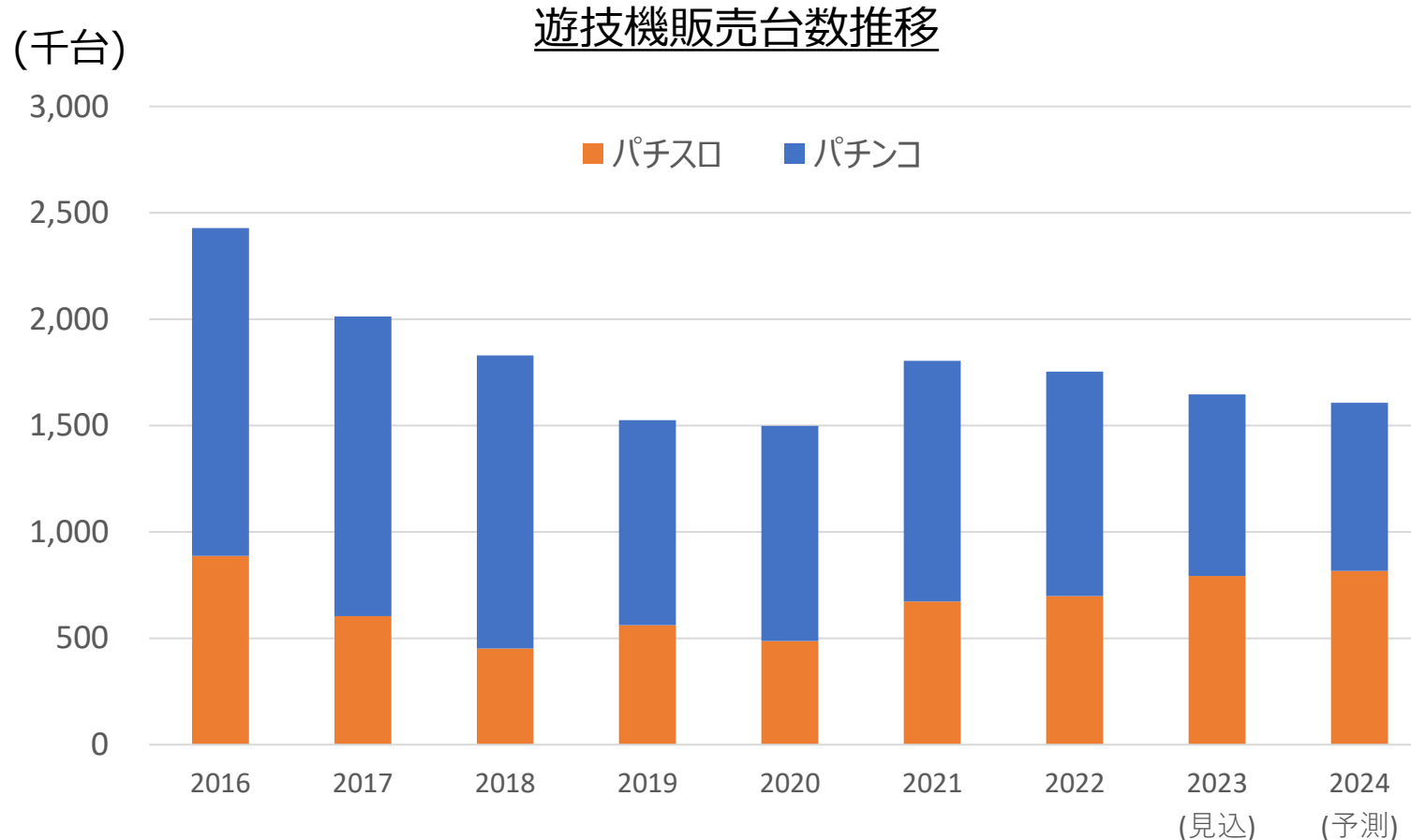
注) 2020年3月期は非連結、2021年3月期以降は連結



市場動向

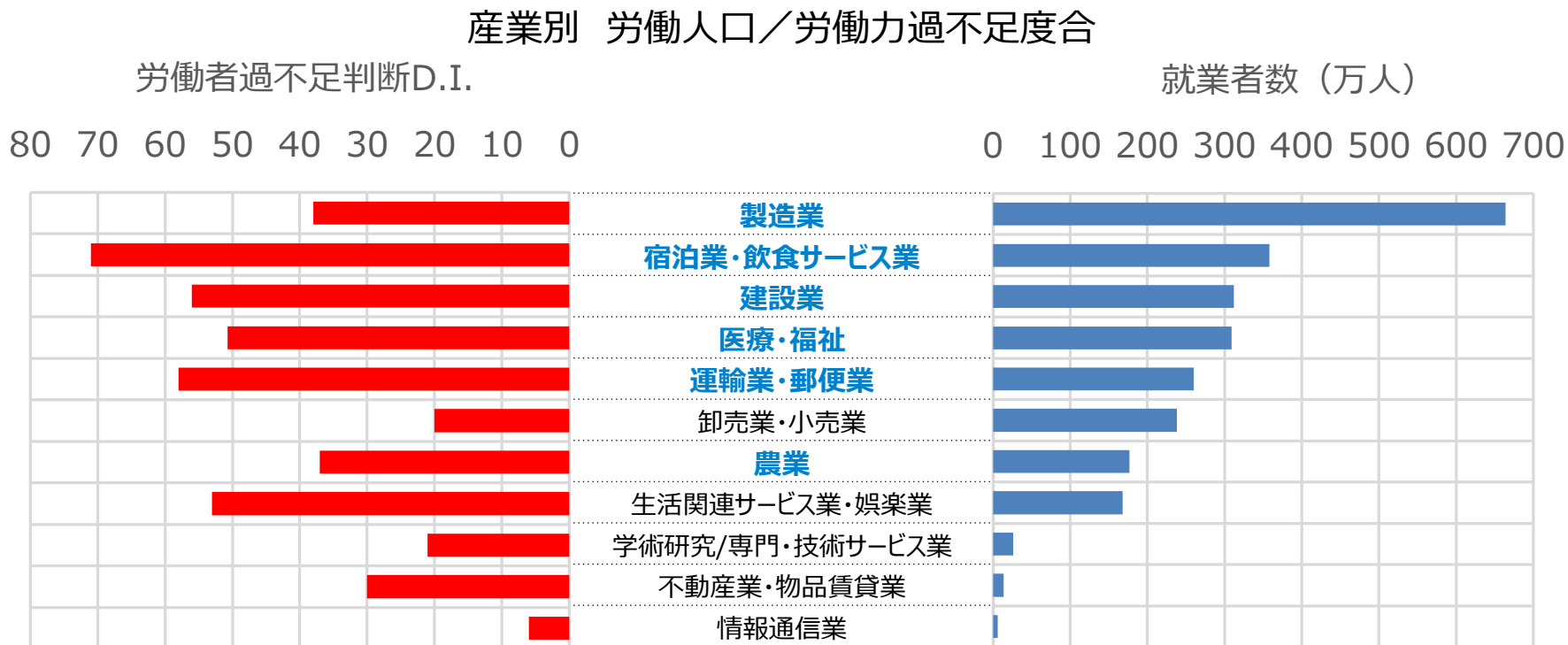


- 当社主戦場のパチスロ市場は2018-2020年度を底に上昇に転じる
- 2024年度もスマートパチスロ、6.5号機中心にパチスロの市場は堅調



出典：矢野経済研究所、見込・予測は遊技機メーカー3社（セガサミーホールディングス、SANKYO、平和）の2024年3月期決算説明資料に記載されている見込・予測数値の平均

労働人口、労働力不足度合の観点から、ロボットの導入効果が期待できる産業は、第一に製造業、他に建設業、運輸業、農業に加え、サービス業の宿泊業・飲食サービス業、医療・福祉も有力

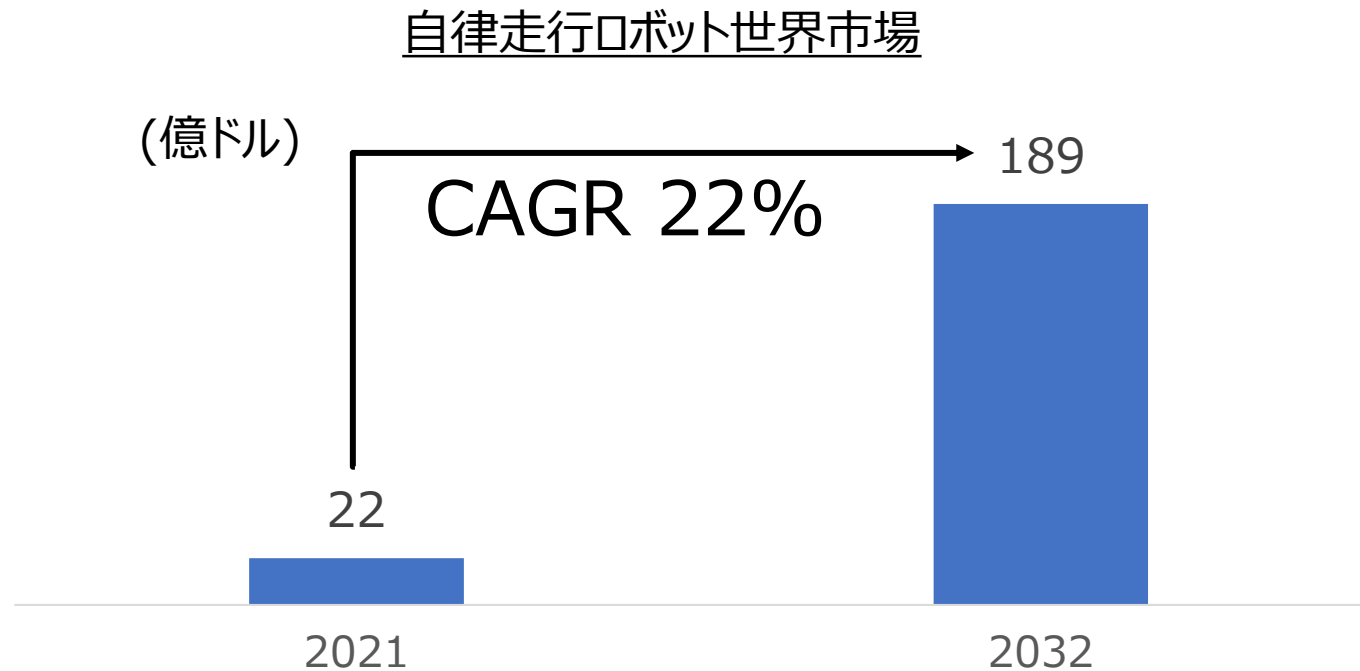


出典

就業者数：2024年3月労働力調査結果（総務省統計局）の産業・職業別就業者の内、ロボット導入効果が高いと推測される職業である農林漁業従事者、生産工程従事者、輸送・機械運転従事者、建設・採掘従事者、運搬・清掃・包装等従事者、サービス職業従事者（宿泊業・飲食サービス業、医療・福祉）の数を弊社が集計したもの

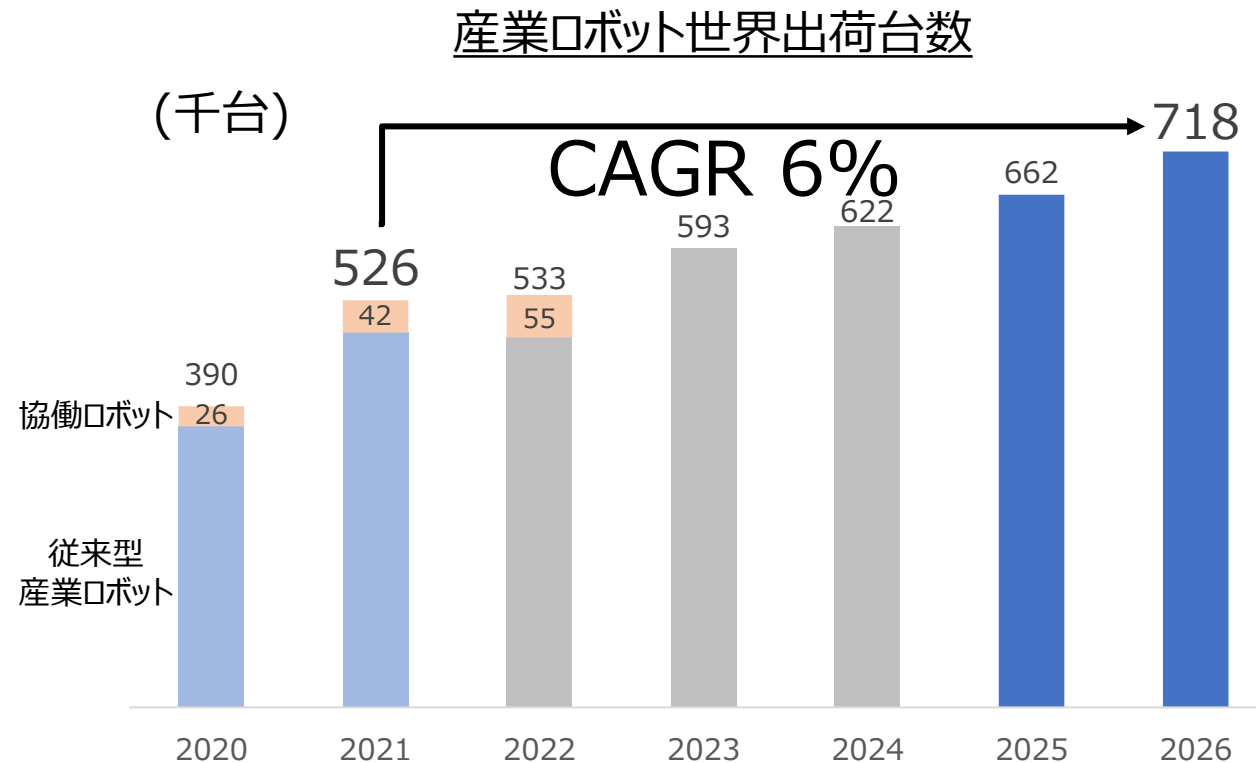
労働者過不足判断D.I.：2024年5月労働経済動向調査（厚生労働省）より、輸送・機械運転、技能工、単純工、サービス（宿泊業・飲食サービス業、医療・福祉）の労働者過不足判断D.I.（不足-過剰）を上記職業別従事者数で弊社が加重平均したもの（農業に関しては、2024年1月農業景況調査（日本政策金融公庫）中の雇用状況DIを使用）

省人・省力化、生産性向上に向けて、製造、物流、農業、家庭等様々な現場で自律走行ロボットの需要が拡大見込



出典：2023年5月「Autonomous Mobile Robot Market」(Allied Market Research)

- 協働ロボットは、労働人口不足を背景に製造・物流現場での導入が進み、三品産業（食品・医薬品・化粧品）への適用も進む
- 従来型産業ロボットと協働ロボットとの境界線が曖昧に。カメラで物体を検出・認識するAIビジョンシステムの適用範囲も拡大



出典：2023年9月「World Robotics 2023」(国際ロボット連盟(IFR))

インフラの老朽化、点検従事者不足に伴い、画像処理、カメラ、ドローンを用いたインフラ点検には大きなTAM※¹/SAM※²が存在

国内インフラ維持管理市場

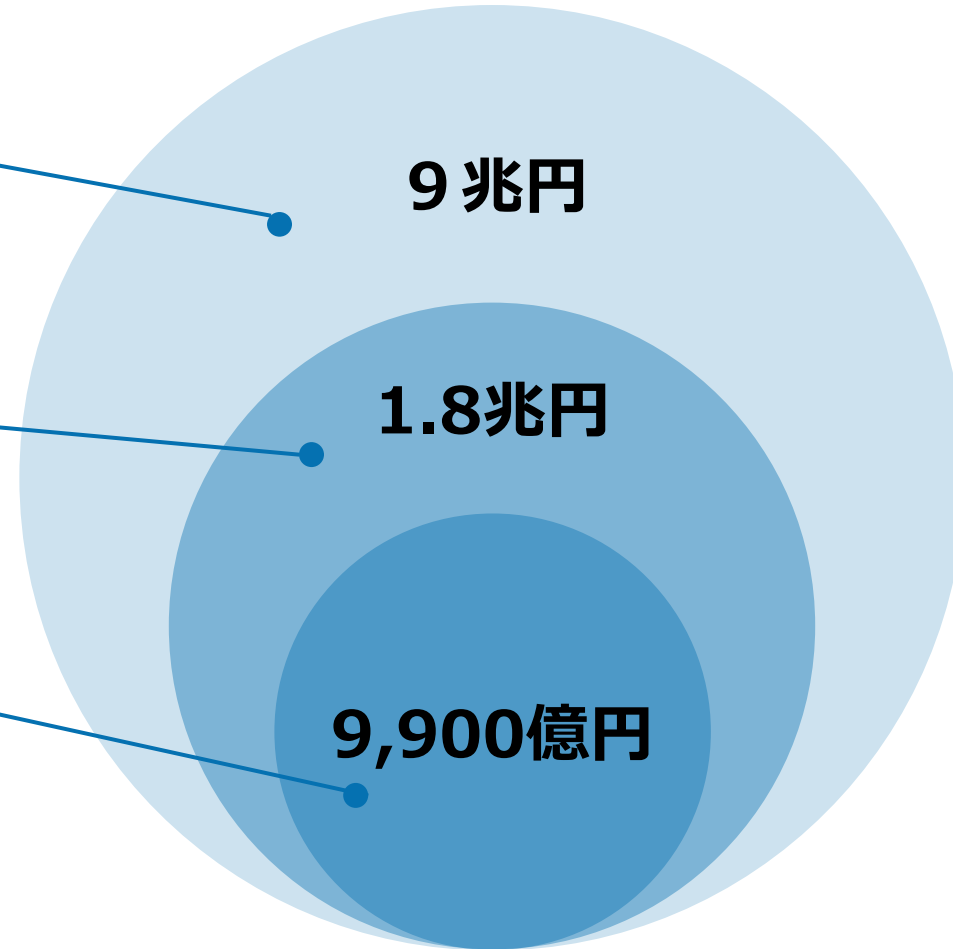
国土交通省「国土交通省所管分野における社会資本の将来の維持管理・更新費の推計」（2018年11月）における2038年度推計6.3兆円
国土交通省管轄外が全体の約3割を占めることから試算

センサー・ロボットを用いた点検補修

高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部「世界最先端IT国家創造宣言」（2015年6月改定）にある目標「国内の重要インフラ・老朽化インフラの20%についてセンサ等の活用による点検・補修を行う」

画像処理、カメラ、ドローンを用いた点検

富士経済「2023年版 次世代インフラ維持管理技術・システム関連市場の現状と将来展望」（2023年2月）によると、2035年に全体市場の55%を画像処理、カメラ、ドローン技術関連が占める



※1 Total Addressable Market : 事業が獲得できる可能性のある全体の市場規模
※2 Serviceable Available Market : 事業が獲得しうる最大の市場規模



成長戦略・事業戦略



Making the Image Intelligent

画像を智能化する

"To create innovative products and services that harness the power of image intelligence to solve real-world problems and drive value for our stakeholders."

画像インテリジェンスの力で現実世界の問題を解決し、ステークホルダーに価値をもたらす革新的な製品とサービスを創造する

パーパスを起点としたサステナビリティの取組み

パーパス

"Making the Image Intelligent"
画像インテリジェンスの力で現実世界の問題を解決し、ステークホルダーに価値をもたらす革新的な製品とサービスを創造する

中長期的な
持続可能性の視点

社会課題
・労働人口減克服
・安心安全社会の実現
・低炭素社会の実現

当社課題
セーフティ分野、ロボティクス分野、
IPコアライセンス事業における
収益・利益の拡大

サステナビリティのマテリアリティ（重要課題）の特定

事業活動を通じた持続可能な社会の実現

人的資本の視点

人的資本のアライメントと充実

KPI

- セーフティ分野、ロボティクス分野、IPコアライセンス事業売上高
- 従業員エンゲージメント指標

メガトピック

社会・環境変化/課題

DMPの取り組み

少子高齢化

- ・労働人口減少
- ・エッセンシャルワーカー労働過多
- ・技能継承問題
- ・高齢者自動車事故増
- ・交通弱者の存在
- ・インフラ老朽化

気候変動

- ・温室効果による平均気温の上昇
- ・自然災害の増加
- ・農業生産量・食糧減

- ・ロボティクス領域における自動・自律化の取り組みにより、労働人口減少、過酷労働を補完する生産性の向上・業務効率化、省人化・省力化に貢献
- ・安全運転支援サービスの提供により、リアルタイムの事故防止やヒヤリハット事象に基づく安全運転教育に貢献
- ・自動・自律運転技術により、MaaS推進に貢献
- ・ハードウェア（IP）の低消費電力化により、グローバルな低炭素社会化に貢献
- ・AI画像認識技術を活用し、インフラ検査に貢献

SDGsへの貢献



強みである共通技術基盤を生かせる分野に注力

アミューズメント



アミューズメントSoC RS1
画像モジュール

ロボティクス



AI推論プロセッサ-IP
カメラIP (ISP&Stereo)
GPU IP
カメラモジュール

自律運転技術
Visual SLAM
ピッキングシステム

セーフティ



安全運転支援システム
DMS/ ADAS
クラウドサービス

共通技術基盤

GPU

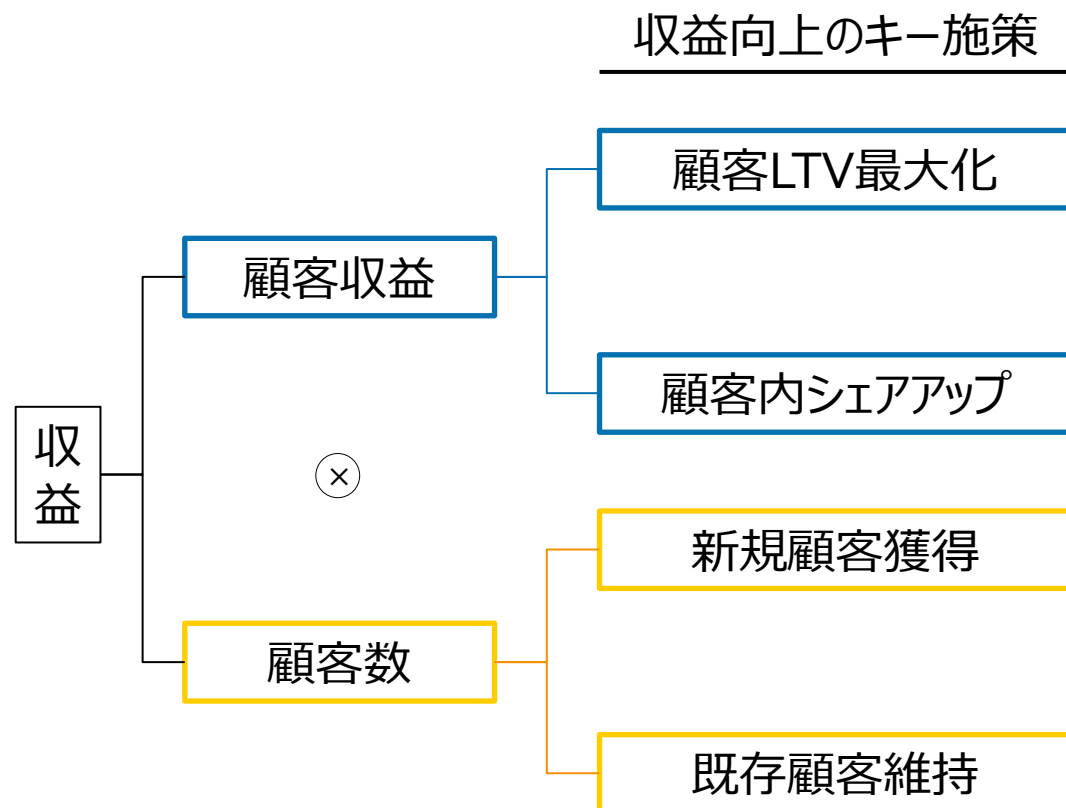
省電力 IP

コンピュータ
ビジョン

エッジ&クラウド
コンピューティング



テクノロジーイノベーション、顧客/エコシステムマネジメント、オペレーションマネジメントにより収益を最大化



収益向上のキー施策

収益向上のキーアクティビティ

1. テクノロジーイノベーション

テクノロジー/製品/サービスの改良、ラインアップ拡大により顧客LTVの最大化、顧客内シェアアップ、顧客維持・獲得を図る

2. 顧客/エコシステムマネジメント

顧客を含めた各種エコシステムとの関係性向上や協業活性化により、顧客維持・獲得、テクノロジーの補完を図る

3. オペレーションマネジメント

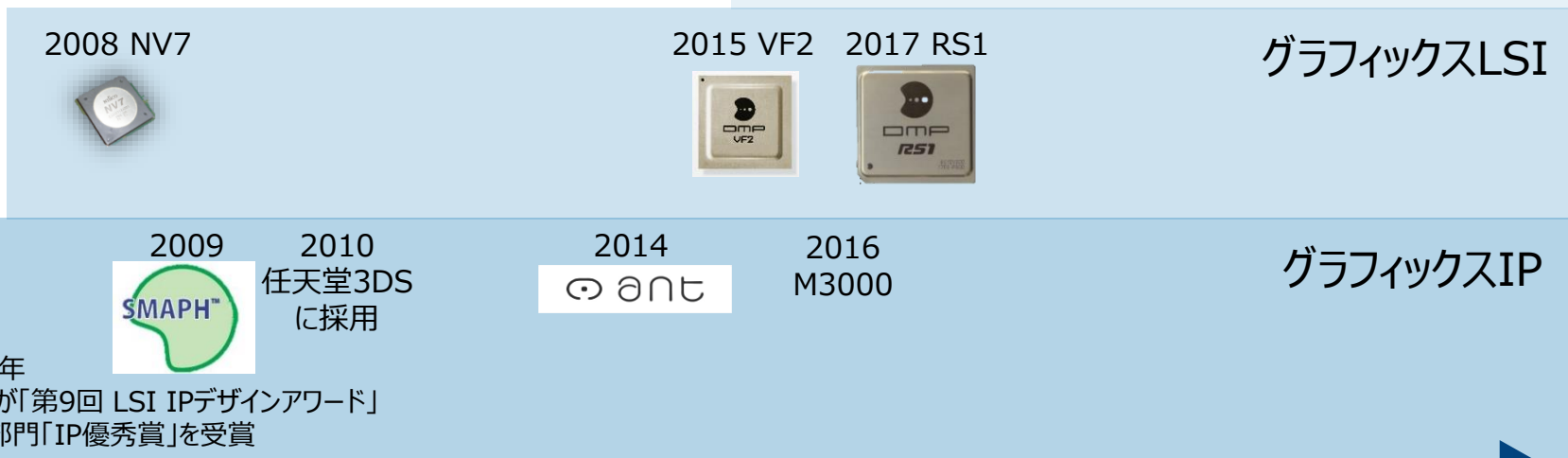
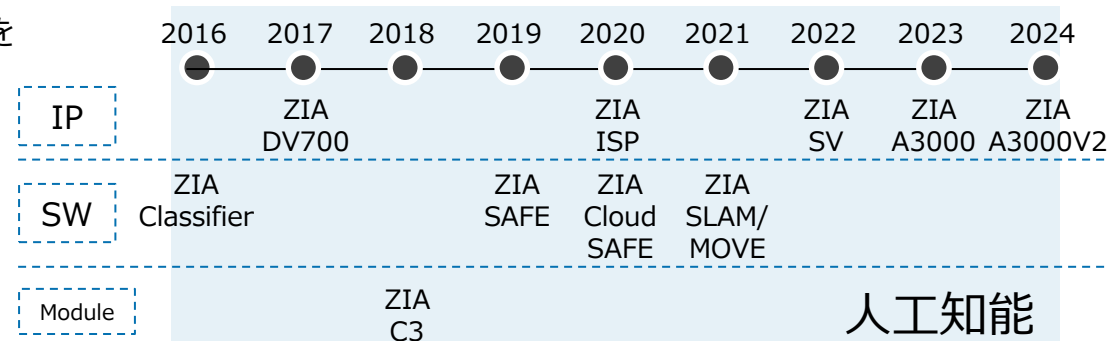
開発人材の強化や品質、コスト、デリバリーのコントロールにより、開発競争力の強化、顧客満足度の向上、収益の改善を図る

収益向上のキーアクティビティ テクノロジーイノベーション

組み込みGPUパイオニアとしてAI、ビジュアルコンピューティング分野において蓄積してきた卓越した技術をベースに、尖ったハードウェア・ソフトウェアIP、ソフトウェア、製品、サービスを開発・提供し続ける

テクノロジーの幅

- 2002年に大学発ベンチャー企業として日本が持つCGプロセッサ技術のレベルの高さを世界に示すべく創業。世界有数のグラフィックスIPベンダーとして省電力、小型、高グラフィックス性能のIPを開発・提供
- 自社のグラフィックスIP技術を組み込んだ高性能のグラフィックスLSIを開発
- 2016年、創業来蓄積してきたGPU技術をベースに、AI・ディープラーニングに対する知見を融合したソフトウェア、ハードウェア、サービスで構成されるプラットフォーム「ZIA™」を開発、AI分野に進出。ポートフォリオを拡張中



2002

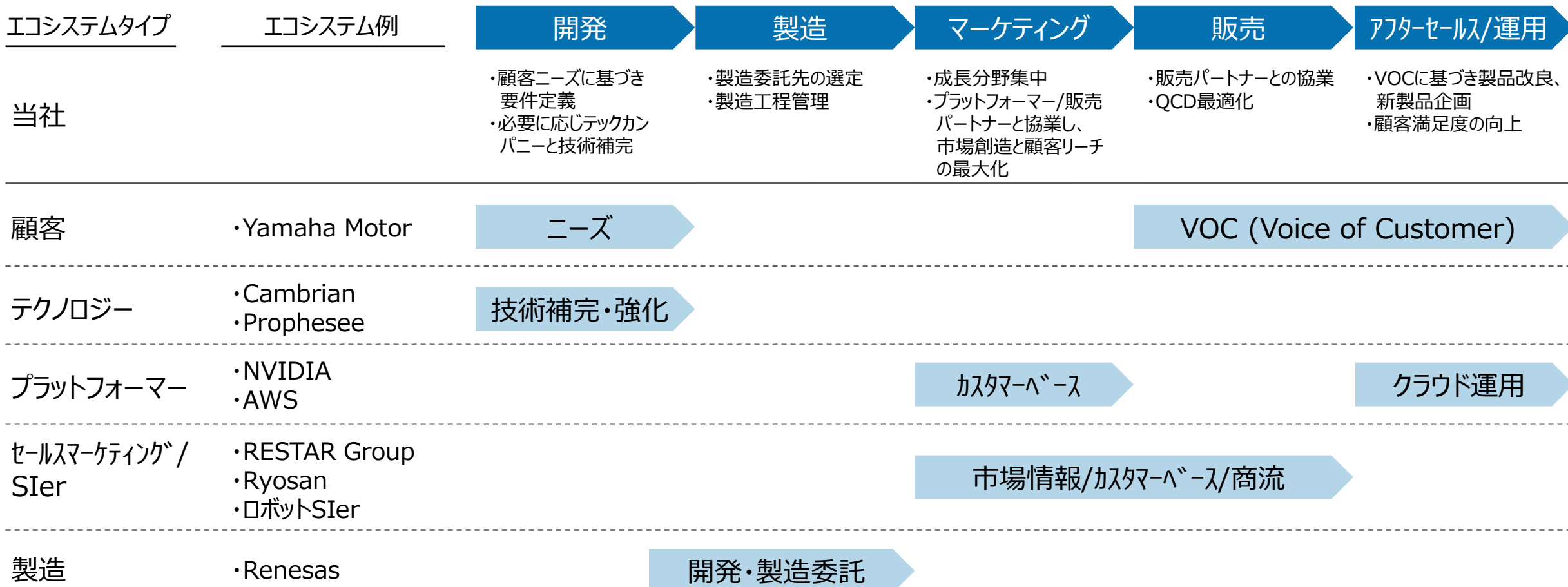
2010

2020

収益向上のキーアクティビティ 顧客/エコシステムマネジメント



顧客を含めた各種エコシステムとの関係性向上や協業活性化により、顧客維持・獲得、テクノロジー補完・強化を図る



中期経営計画（2022年3月期～2024年3月期）振り返り



- 最終年度の2024年3月期は売上高過去最高更新、各段階利益も上場来最高益。中期計画から上振れ着地
- セーフティ分野：2023年3月期に計上したOTA※1案件や製品売上が剥落。リカーリング収益拡大を見込んだ中期計画は未達
- ロボティクス分野：Cambrianビジョンシステムの売上は拡大も、IPライセンス、プロフェッショナルサービス増を見込んだ中期計画は未達
- アミューズメント分野：パチスロ6.5号機、スマートパチスロ向け需要増により、中期計画に対して実績大幅上振れ
- 本中期経営計画期間の市場状況、事業実績、気づきを中計事業戦略に反映

(百万円)	2021年 3月期実績	2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期	
		中期計画※3	実績	業績予想※4	実績	中期計画※4	実績
セーフティ	49	183	163	263	170	302	71
ロボティクス	166	374	236	290	185	415	168
アミューズメント	646	840	1,155	1,719	1,821	1,716	2,642
売上高※2	1,009	1,500	1,667	2,370	2,322	2,540	3,016
営業利益	△425	△250	△126	25	27	200	328
経常利益	△361	△250	△122	25	28	200	330

※1 Over the Airの略、エンドユーザー車両にすでに搭載されているドライブレコーダーに当社のソフトウェアを無線で実装

※2 主要3分野（セーフティ・ロボティクス・アミューズメント）以外の売上高（デジタル機器向けAI/GPU IPコアライセンス等）を含む

※3 2021年5月14日公表「中期経営計画に関するお知らせ」中の中期計画

※4 2022年6月14日公表「事業計画と成長可能性に関する事項」中の業績予想及び中期計画

中期経営計画期間（2022年3月期～2024年3月期）における気づきを中期事業戦略に反映

	セーフティ	ロボティクス	アミューズメント
市場/事業前提	<ul style="list-style-type: none"> AI/通信機能搭載ドライブレコーダー市場の高成長が継続 新規顧客獲得、既存顧客プロジェクト増により、リカーリング収益が拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ロボットの社会実装に伴い、自律走行ソフトウェアの量産向けライセンス収入やプロフェッショナルサービス収入が拡大 ピッキングロボット向けビジョンシステムも事業成長 	<p>パチスロ6.5号機、スマートパチスロ、スマートパチンコの市場導入に伴い、ゲーム性拡充による市場喚起が期待できる</p>
中計期間における実績/気づき	<ul style="list-style-type: none"> 国内ドライブレコーダー市場の伸長率は鈍化 2023年～2028年のCAGR2%弱※1 顧客の投資意欲も弱含みであることから、継続的な顧客プロジェクトの獲得に至らず 市場拡大前提の戦略の転換が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ロボットの社会実装が進んでいない※2 顧客製品が採用される前提の本格量産ライセンス収入拡大や顧客R&Dプロジェクトのプロフェッショナルサービスへの売上依存は不確定要素が強い ビジョンシステムの引き合いは強い 	<p>パチスロ6.5号機、スマートパチスロを中心としたパチスロの市場拡大/需要増が想定より力強く推移</p>
中期事業戦略への生かし	<ul style="list-style-type: none"> モデルベース開発対応により、自動車に加え、建機、農機分野等を攻略 高精度なAI認識技術を活用したスマートシティ、スマートビル等の広範なセーフティ市場の攻略 生成AIの活用、軽量化 	<ul style="list-style-type: none"> 自律走行ロボット向けライセンス供与から量産ライセンス獲得活動は継続 Cambrianビジョンシステムは顧客インラインへの複数導入を加速 技術/製品/顧客シナジーが見込めるFA検査市場に参入 	<ul style="list-style-type: none"> 顧客ベースの拡大 遊技機周辺ビジネスの取り込み
<p>セーフティ、ロボティクス技術の融合により、市場成長が期待できる映像点検分野、半導体製造装置分野等を大手協業先とともに能動的に攻略</p>			

出典

※1 2024年2月「AV&IT 機器世界需要動向 ～2028年までの展望～」(JEITA (一般社団法人電子情報技術産業協会))

※2 2023年4月「ロボット分野における研究開発と社会実装の大局的なアクションプラン」(NEDO (国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構))

- モデルベース開発※¹ (RTMaps) に対応させたZIA SAFEにより、自動車、建機、農機分野等を攻略
- より広範なセーフティ領域である公共交通機関の危険検知・予知やスマートシティ関連に事業拡張
- 生成AI技術を活用した先進安全システムの研究、実用化

ZIA™ SAFE

エッジAI(推論)

- ・リアルタイム認識
- ・プライバシー、セキュリティー
- ・送信データ量削減




車外・車内 (ドライバー) 監視

JVCKENWOOD
DENSO TEN

人とクルマを笑顔でつなぐ
住友三井オートサービス

ZIA™ Cloud SAFE

**SaaS型クラウドAI
(推論&学習)**

- ・API提供
- ・拡張性
- ・高精度認識
- ・24/7運用
- ・継続学習



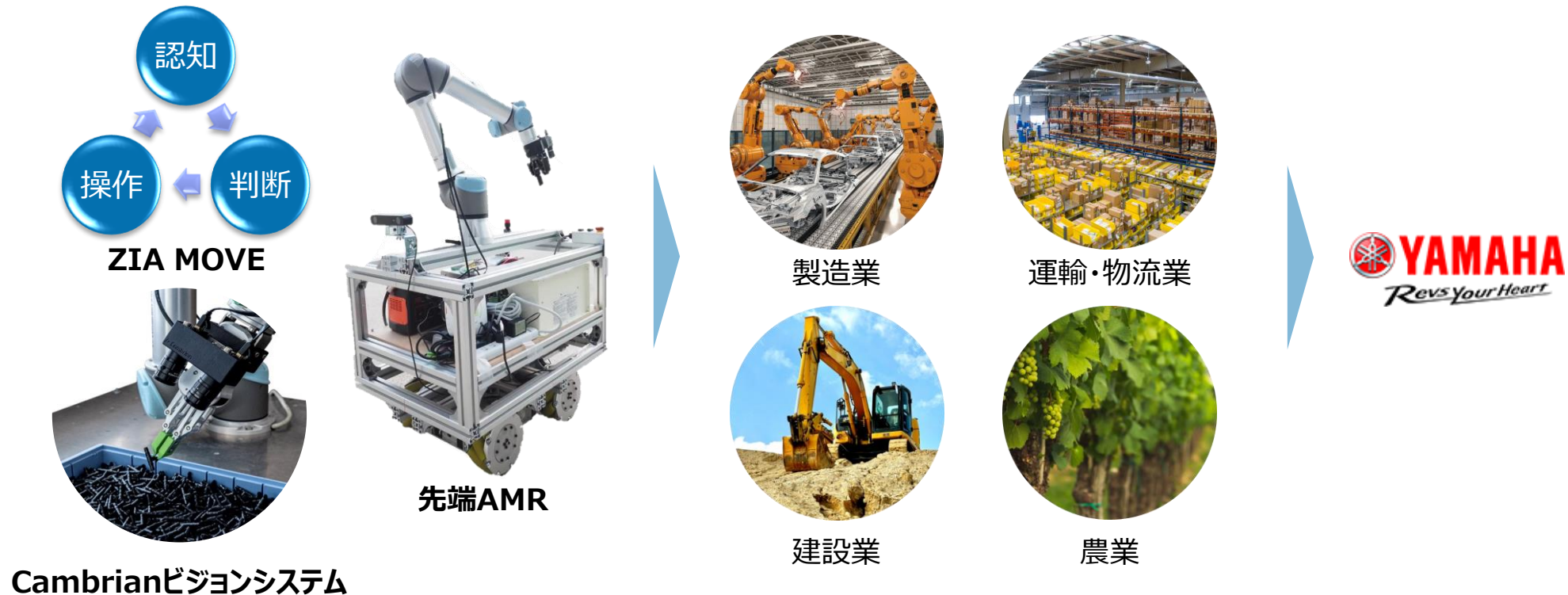
公共安全 スマートシティ BEMS※²

地方自治体
公共交通機関
エネルギー
ビル・建設

※¹ システムを構築する制御や制御対象をモデル化し、シミュレーションすることで、検証を行いながら設計開発を進めていく手法
設計工程での検証が可能となり、検証工程における手戻りが少なくなることで、開発工数の大幅な短縮と品質向上が可能となる

※² Building Energy Management Systemの略。ビル内で使用する電力の使用量などを計測し、「見える化」を図るとともに、空調や照明設備等を制御するエネルギー管理システム

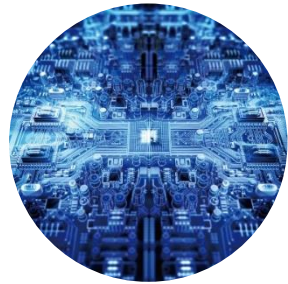
- ローコストで環境変動に強いVisual SLAMをベースに自律運転のフルパイプラインを実現 (ZIA MOVE)
- 製造業、運輸物流業、建設業、ビルの施設管理等向けのサービスロボットの開発においてAMR/AGVベンダーとの協業
- ピッキングロボットの目の役割を果たすCambrianビジョンシステムは、各種ロボットアームとの連携、光沢・透明物等の高難度ピッキング能力をてこに、顧客の組み立てラインへの複数導入を加速
- 技術/製品/顧客シナジーが見込めるFA検査市場に参入



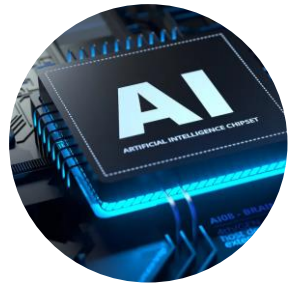
- リアルタイム3Dエンジンと高性能・高圧縮動画エンジンをワンチップ化（業界初）
美しい映像表現と遊技機筐体コスト削減を両立
- パチスロ市場の活況とRS1を搭載したZEEG製標準筐体の遊技機業界への浸透に伴うシェア拡大
- 当社のユニークな2D・3D統合チップの優位性を発揮できる市場セグメントにおけるシェア拡大、新規顧客参入を目指す
- 遊技機周辺ビジネスの取り込み



- お客様のデジタル機器のアプリケーション、搭載SoCに最適な小サイズ、低消費電力、高性能なIPを提供
- デジカメ、OA機器、テレビ、監視カメラ等幅広い顧客／アプリケーション向けランニングロイヤリティの安定獲得
- 次世代AI IP/半導体の開発、市場導入



GPU IP



AI IP



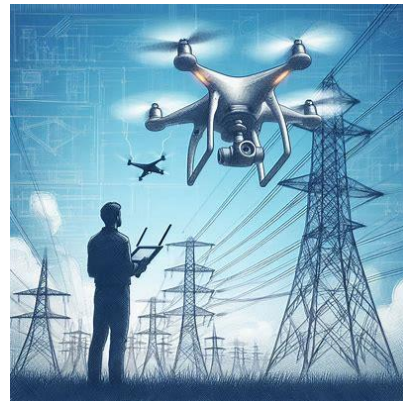
- ZIA MOVEとZIA SAFEを統合したVisual SLAM、自律運転制御、AI解析技術を活用したインフラ映像点検ビジネスを大手協業先と推進。成果を水平展開
- 高付加価値映像解析サービスをリカーリングモデルで提供

【データセンター点検】



データセンター運営会社

【鉄塔点検】



通信インフラ管理会社
筑波大学と共同研究開発

【ビル内点検】



ゼネコン

【半導体工場内搬送】



半導体製造システム会社

● KPIの変更

[従来]

セーフティ分野、ロボティクス分野におけるIPコア
ライセンス事業の売上高（売上高比率）



[今後]

セーフティ分野、ロボティクス分野及び両分野の融合領域、
並びにその他分野売上高

● 背景

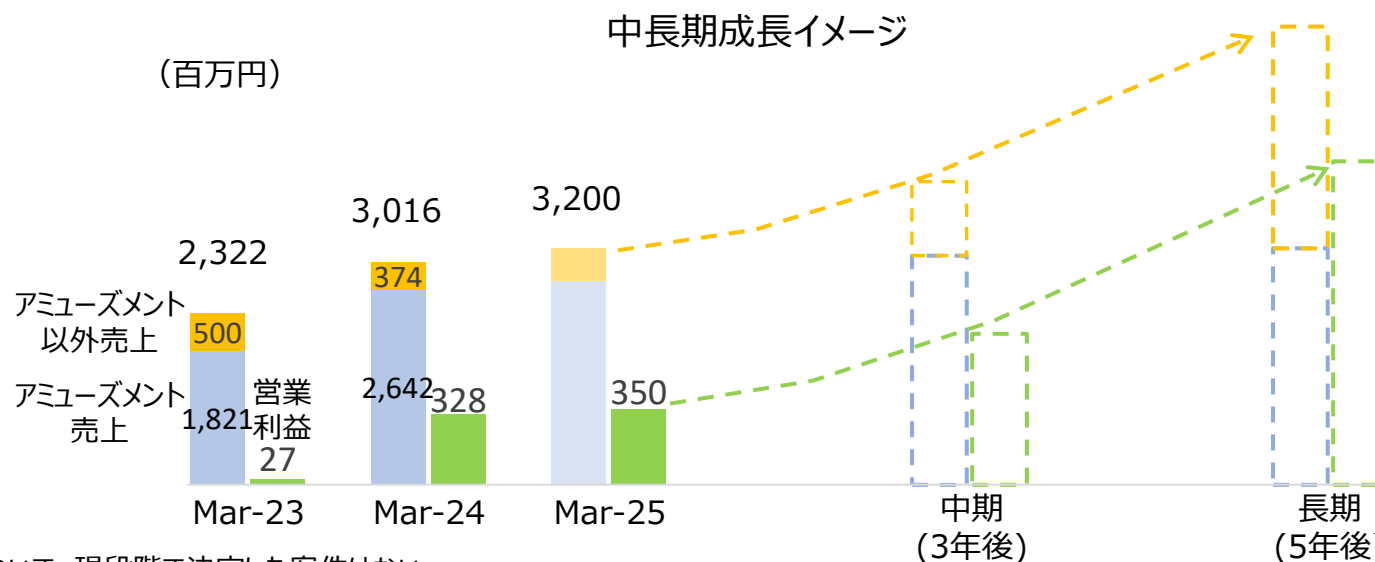
- セーフティ分野、ロボティクス分野において、お客様が、IPライセンスやソフトウェアの提供にとどまらず、製品やプロフェッショナルサービスも組み合わせたソリューションパッケージの提供を求めるケースが増えている
- 当社のより高付加価値を追求したい志向にも合致
- サステナビリティのマテリアリティ（重要課題）として特定した「事業活動を通じた持続可能な社会の実現」のKPIと平仄を合わせる

● KPI推移

(百万円)	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期
セーフティ	49	163	170	71
ロボティクス	166	236	185	168
その他分野	148	111	144	134
売上高	363	512	500	374

アミューズメント分野の安定収益基盤のもと、同分野以外における成長を確実なものとする

- アミューズメント分野
顧客ベース拡大、遊技機周辺ビジネス取り込み等により、中期的には安定成長、長期的にも安定収益基盤を確保する
- アミューズメント分野以外
 - ・社会インフラ等の映像点検事業では、点検ロボット等製品売上とともにサービスを組み合わせたりカーリング収益により収益・利益を拡大
 - ・FA点検市場向けには、Cambrianビジョンシステムに加え、シナジー効果のある技術・製品を投入。中期的に垂直立ち上げを図る
 - ・AI IP/半導体、生成AI開発等最先端投資を行い、市場導入を図る
 - ・リソース・製品の補完、市場・業界の知見を深めることを目的に、M&A・資本業務提携※も積極的に検討



※ M&A・資本業務提携について、現段階で決定した案件はない



リスク情報



項目	主要なリスク	顕在化の可能性/時期	影響度	リスク対応策
技術の陳腐化や研究開発の失敗	グラフィックス処理やAIの技術は進化の速度が非常に速く、当社が後れを取ってしまうリスクがあります。また、研究開発が遅延したり頓挫したりするリスクもございます。	中/不明	大	技術動向を注視し、積極的に技術開発を進めていきます。また、技術開発に必要な優秀な技術者の確保に努めてまいります。
販売先の市場動向	当社収益は、当社製品を組み込んだ顧客のアミューズメント機器や車載機器などの出荷台数と一部連動するため、これら製品の販売が不振になった場合や法規制などによって出荷台数が減少した場合に減収となるリスクがございます。	小～大/不明	大	外部情報や顧客からの情報収集を行い、新市場の開拓や新製品の開発を積極的に進めてまいります。法規制については、当社単独で対処することは不可能ですが、チャネルや最終顧客と密接に連携し、当社業績への影響度を見極めるとともに、必要に応じて開示を行うなどの対応を行います。
人材の確保・育成	優秀な人材の確保が今後の成長の大前提ですが、AIをはじめとした先端技術人材の確保は難易度を増しています。人材確保がかなわなかった場合には、成長が阻害されるリスクがございます。	中/中長期	大	裁量労働制の導入といった柔軟な勤務体系や、株式報酬制度などの魅力的な報酬体系を用意して人材獲得に尽力しております。

※ その他のリスクにつきましては、有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください。

- 本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ環境や当社の関連する業界動向等により変動することがあります。従いまして、実際の業績等が、本資料に記載されている将来の見通しに関する記述と異なるリスクや不確実性がありますことをご了承ください。
- 本資料は、弊社をご理解いただくための情報提供を目的としたものであり、弊社が発行する有価証券への投資を勧誘するものではありません。本資料に全面的に依拠した投資等の判断は差し控え願います。
- 「事業計画及び成長可能性に関する事項」の進捗状況を含む最新の状況につきましては、本決算発表後6月頃に開示を行う予定です。次回は、2025年6月頃を予定しております。



補足資料



事業	事業内容	主要顧客
IPコア※1 ライセンス事業	<p>精細画像の描画やディープラーニング（深層学習）※2などの人工知能（AI）※3に必要なハードウェアIP（論理設計データ等）やソフトウェアIP（主にハードウェアを制御するドライバーやコンテンツ制作を支援するツール類）の開発、ライセンス（使用許諾）供与</p> <p>a) ライセンス収入：顧客が製品開発を進める過程で、当社がIPコアライセンスのライセンスを与えたことによる対価</p> <p>b) リカーリング収入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ランニングロイヤリティ収入：IP組み込み製品を顧客が販売する際、製品出荷個数に応じて顧客から収受する対価 ・サブスクリプションフィー：顧客の当社サービスの使用実績等に応じて顧客から収受する対価 <p>c) 保守サービス：保守契約に基づくIPコアの保守等</p>	半導体メーカー 半導体が組み込まれた 最終製品メーカー
製品事業	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフィックス LSI※4(SoC※5)(主にアミューズメント機器向け)の開発・製造・販売（製造は委託） ・協働ロボット※6向けビジョンシステム（カメラによる物体認識システム）の販売 等 ・AI LSI(FPGA※7)/モジュール(AIを使用する機器向け)の開発・製造・販売（製造は委託）等 	商社/SIer 半導体が組み込まれた 最終製品メーカー
プロフェッショナル サービス事業	当社の各種IPコアをインテグレーションしてSoCシステム全体を検討・最適化する設計サービス、自社製品の開発により培ったGPU※8/ビジョン/AI技術等をベースにしたアルゴリズム開発や最適化を行なうソフトウェア/ハードウェアサービス等さまざまなサービスを提供	半導体が組み込まれた 最終製品メーカー

※1: LSIを構成するための部分的な回路情報のうち、特に単一機能でまとめられたもの（例：グラフィックスIPコア）。IPはIntellectual Propertyの略称

※2: 画像認識分野などで実用化が進む、人工知能を実現する機械学習の手法の一種。人間の脳を模したニューラルネットワークの仕組みを活用

※3: 人間が行っている認知や判断を、コンピュータを使って行うためのソフトウェアやシステムのこと。文章、画像、会話、音などを理解し判断するコンピュータプログラムなど

※4: シリコンウエハ（半導体製品の製造に使用される導体と絶縁体の中間の性質を持つ物質）で形成される大規模集積回路。Large Scale Integrationの略称であり、「半導体」とも呼ばれる

※5: 一つの半導体チップ上に必要とされる一連の機能（システム）を集積する集積回路（の設計手法）。System on a Chipの略称

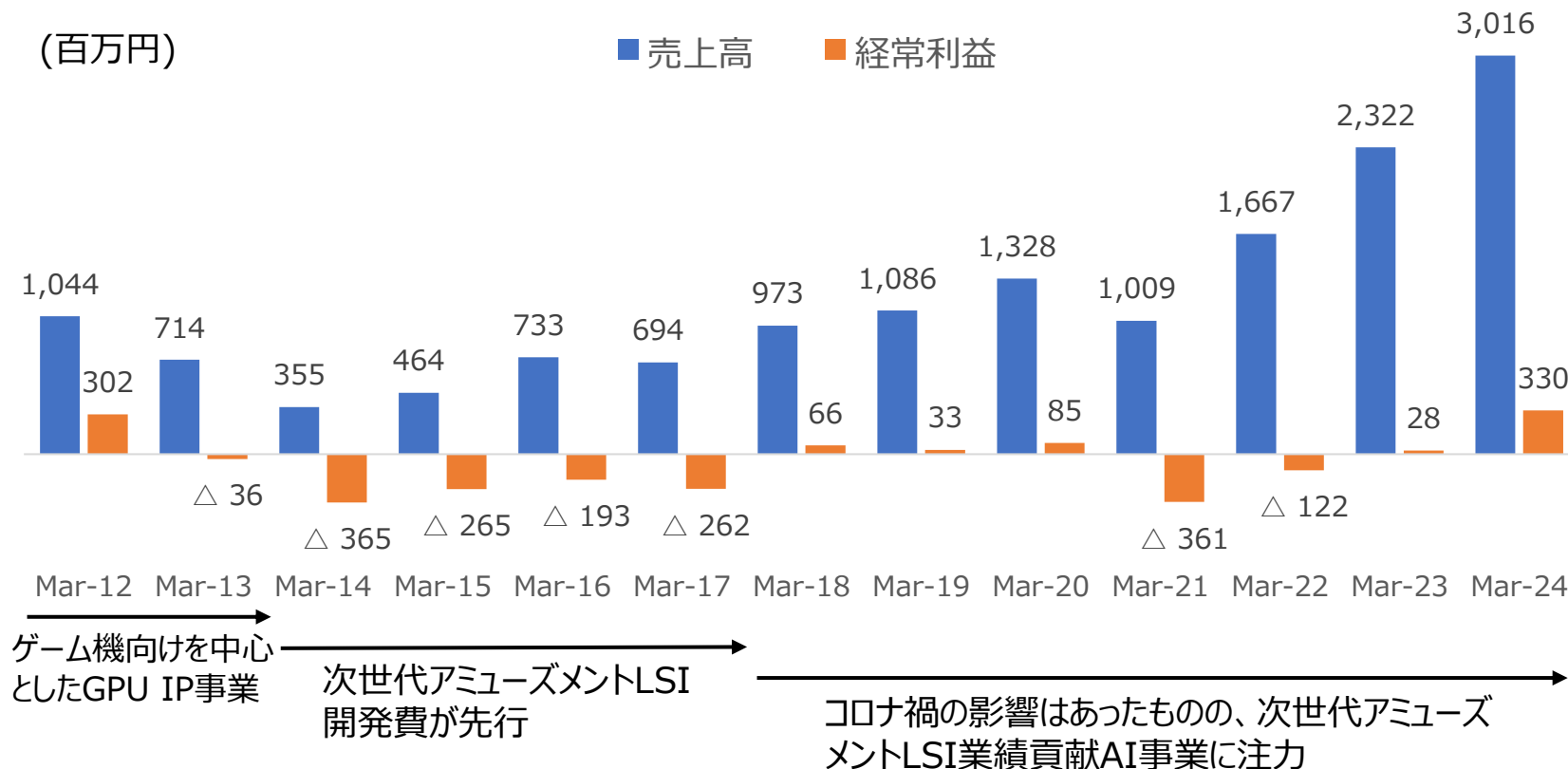
※6: 安全柵なしで人と共同作業ができるロボット

※7: 製造後に購入者や設計者が構成を設定・変更できる集積回路。Field Programmable Gate Arrayの略称

※8: コンピュータゲームに代表されるリアルタイム画像処理に特化した演算装置ないしプロセッサ。Graphics Processing Unitの略称。CPUよりも並列演算性能にすぐれた特性を生かし、その演算資源を画像処理以外の目的に応用する技術（GPGPU: General-Purpose computing on GPU）がAI・ディープラーニング分野に活用されている

- ・上場時のゲーム機向けを中心としたGPU IP事業から、アミューズメント向けLSI開発・販売、近年はAI事業に注力
- ・2024年3月期は主にアミューズメント分野、製品事業の伸長により、売上高は過去最高を更新
営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は大幅増益、上場来最高益を達成

当社業績※推移



※ 2020年3月期までは個別業績実績、2021年3月期以降は連結業績実績

2025年3月期は6%の増収、営業利益・経常利益の増益を予想

パーパス「Making the Image Intelligent」のもと、「安全安心社会の実現」、「社会課題の解決」に寄与する製品・サービスを創出、提供するとともに、画像処理半導体の安定成長を目指す

(単位：百万円)	2024年3月期 通期実績	2025年3月期	
		通期予想	増減率
売上高	3,016	3,200	+6.1%
営業利益	328	350	+6.5%
経常利益	330	350	+5.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	331	290	△12.5%

- アミューズメント分野：画像処理半導体RS1の安定成長
- セーフティ分野/ロボティクス分野
 - エッジ/クラウド対応AI画像認識技術、SLAM/自律走行技術、Cambrianビジョンシステム等の技術・製品の組み合わせ
 - 本分野で培った独自技術、ビジネス知見、顧客基盤、エコシステムを統合した社会課題解決型新規ビジネスを創出、提供
- その他分野（IP）：GPU IPランニングロイヤリティ等の安定ビジネス基盤に加え、新規GPU/AI IPビジネスを獲得